

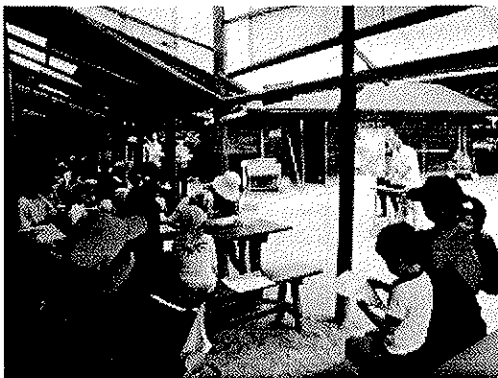
## 事業報告

講座名	田んぼの生きものを探そう		
日時	平成21年 5月30日(土) 13:00~15:30		
場所	周南市大田原自然の家周辺	参加者数	31人
共催者	ツルの里いきもの研究会 代表 半田 智子		

### 活動内容

13:00~14:00 田んぼの生きもののお話し

周南市の環境活動団体ツルの里いきもの研究会との共催講座「田んぼの生きものを探そう」を実施しました。



田んぼの生きものとお飯のお話し



カエルについて講話する田原講師

講師として 田原 義寛 氏(秋吉台エコ・ミュージアム自然解説指導員)に指導していただきました。

図を用いて、生きものもごはんも田んぼの恵みであるという説明がありました。ごはん1杯分の稲を育てるために必要な田んぼの面積は約0.3㎡、ごはん1杯分の田んぼの面積で、オタマジャクシは35匹育ちます。ところが、メダカ1匹が育つためにはごはん35杯分の面積が必要で、トノサマガエル1匹は、ごはん113杯分33.9㎡の田んぼが必要になります。コサギに至っては、1匹を養うのにごはん15万杯分45000㎡の田んぼが必要になります。このように田んぼは多くの生きものを育てており、ミジンコのような小さな生きものから大型の鳥類まで、田んぼの中で食う—食われる関係を保ちながら自然の循環がくり返されていて、田んぼで稲を作るといことは、生きものたちのにぎわいや自然そのものを守ることに繋がると話されました。

次にカエルについての詳しい解説。カエルは里地・里山にとって大切な生きもので、里地・里山の生態系を支えているが弱い生きものであり、サギ・ヘビ・タガメ・ミズカ

マキリ・ドンコなどのエサとなっています。オタマジャクシは草食性で植物性プランクトンなどを食べて成長し、カエルに変態上陸してからは肉食性となり、稲の害虫などを食べる天敵として活躍します。

この季節、周南市大田原付近では、トノサマガエル・ニホンアマガエル・ニホンアカガエル・ヤマアカガエル・タゴガエル・モリアオガエル・シュレーゲルアオガエル・ツチガエル・ヌマガエル・などを見ることが出来ます。



カエルの紹介



袋の中からカエルを探し出す

予め捕獲し濡れた布袋に入れられたカエル数種を、1匹ずつ参加者に手探りで捕まえ取り出してもらい、取り出されたカエルをみんなで観察しました。名前を答えてもらい、あわせて写真と鳴き声を録音したものを再生して紹介し特徴を覚えてもらいました。基本的に、鳴くのはオスですが、鳴き声はそれぞれ特徴的で姿を見せないときでも所在の確認と同定が容易にできるということです。

#### 14:00～15:00 田んぼの生きもの観察

周辺の田んぼに出て、カエルや水生昆虫などの採集を行いました。子どもたちは最初おそろおそろ足を入れて網ですくっていたましたが、慣れるにしたがってどろんこになりながら懸命に採集していました。

年間を通じて湛水してある圃場は、生きものの種類も多く、トノサマガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエルなどの成体とオタマジャクシ、アカハライモリ、ミズカマキリ、マツモムシ、ガムシや希少なゲンゴロウ類も見つかり、陸上ではシュレーゲルアオガエルの卵塊やシマヘビなども見ることが出来ました。



田んぼにて



採集方法の説明

#### 15:00~15:30 ふりかえり

ふりかえりは、田んぼとカエルなどの生きものとの関係についての復習。カエルやクモなどの益虫が害虫を補食すること、それらを大型の鳥類や爬虫類・哺乳類がエサとし、排泄物が田んぼに落とされることで肥料となって自然界の物質が循環します。自然の中で生きものたちが生きていくためには、小動物が繁殖できる田んぼのような湿地や沼・溜め池・河川などの水辺の保全が欠かせないことなどの話がありました。

田んぼの生きものとの役割や環境保全の必要性など大人も学びを深め、子供たちもほとんどが、カエルやアカハライモリ・シマヘビなどに触れることが出来、生きもの達の命の営みについてそれぞれに実感できるものがありました。